記者発表

幻の忍術書　寄贈される

『万川集海』はじめ貴重な忍術書が国際忍者研究センターへ

- 昭和初期の忍術研究者・大澤休象（おおさわ きゅうしょう）が所蔵していた貴重な忍術書が国際忍者研究センターに寄贈されました。

- 『万川集海』全22巻は忍術書の中で最も重要なもので、「大澤本」はその存在が知られていたものの、長らく所在が不明でした。『万川集海』成立350周年という本年に再発見されたのも、何かの縁かと思います。

- 『万川集海』は延宝4年（1676）伊賀の冨治林保道によってまとめられ、増補され甲賀にも伝わった忍術書で、限られた忍びの家だけに書写が許された「忍術の百科事典」です。全冊揃っているのはとても珍しく、現在確認できている江戸時代の写本は、伊賀流忍者博物館蔵沖森本、上野図書館本、大原勝井本、内閣文庫本のみです。

- ほかにも、これまで内容の知られていない忍術書の昭和時代の写本、大澤休象の自筆原稿、原稿が掲載された新聞記事等を寄贈いただきました。

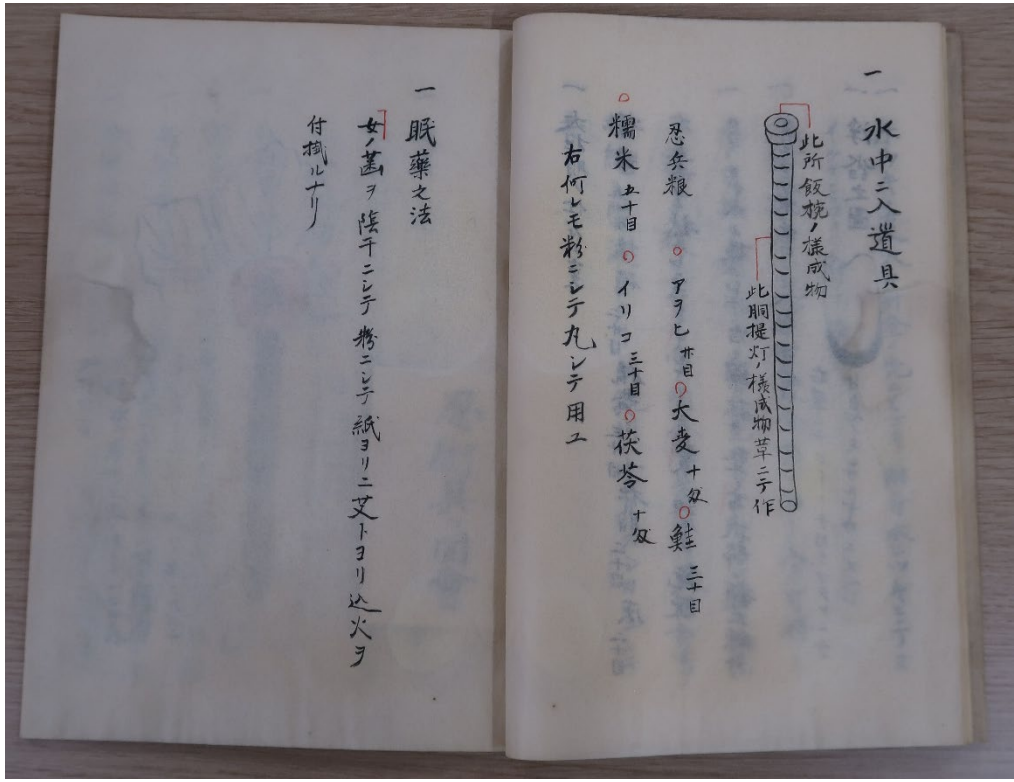


＜本件に関するお問合せ＞
三重大学人文学部　山田雄司
TEL：059-231-9096
E-mail：yyamada@human.mie-u.ac.jp

【背景・経緯】
　大阪府堺市お住まいの大澤徳平氏より、建物を解体するに当たり忍術書が発見され、忍者研究をしている研究者に寄贈して研究していただきたいということで、人文学部山田雄司に送っていただき、国際忍者研究センター所蔵となりました。送っていただいたのは、江戸時代の写本で甲賀本の『万川集海』、昭和初期に書写したと思われる『正忍記』『忍秘伝』『万川集海』、その他これまで内容が知られていない『極意秘密巻』『忍術具之巻』『忍術具之図会』『八門遁甲之巻』といった写本、また大澤休象の自筆原稿や関連新聞記事も多数寄贈していただきました。

【研究内容・成果】
　大澤休象は堺市議会議員や堺市史編纂委員をつとめ、修験道研究を進めていく中、忍術に出会って興味を抱き、伊賀・甲賀を何度も訪れて史料を集め、雑誌に原稿を書いたり、各地で講演をしたりして、『万川集海』を世に初めて紹介した人物です。
　著書執筆中の昭和14年に55歳で亡くなってしまったため、忍者研究においてはあまり知られていません。今回寄贈いただいた『万川集海』はもとどこにあったのかわかりませんが、甲賀本系である一方、著者について「伊州湯舟村隠士藤林保義」と記されているのは、他書にはない特徴と言えます。
　また、他の忍術書についても、昭和初期の写本ではありますが、これまで存在については知られていたものの、内容について紹介されたことはなく、隠れる術や忍具等について具体的に記されているとても興味深いものです。

【今後の展望】
　本文をよく検討し、他の写本との伝来関係を明らかにし、『万川集海』の成立過程を明らかにしていきたく思います。
　さまざまな忍術書の内容を詳細に分析し、どのような忍術があったのか、そしてその広がりについて検討していきたく思います。



『忍術具之図会』